保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人　備前プレーパークの会
施設名	小規模保育園　どんぐりえん
報告者（役職）	竹内　説子　（副主任）
住所・連絡先	岡山県備前市久々井１３９０－１
	☎　０８６９－６３－３３３２ E-mail　*m.kitaguchi@playpark.org

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

健やかに伸び伸びと育つ　　頭と心と体を育てる運動遊び

○主な助成備品

はいはいマット・ビルド&バランス・アドバンスセット・ミニトップ

１．保育計画(新規事業計画)策定の目的

◎子どもが体を使って思い切り遊ぶことができるように、五感や好奇心を刺激してチャレンジできる環境づくりに取り組む。

◎全身の神経を集中させる運動遊びは子どもの五感を刺激する。体を使う屋内遊びや雨の日の運動遊びに活かす。

２．具体的な実施内容

0 歳児　保育者の愛情豊かな受容の下、寝返り、這う、立つ、歩くなど十分に体を動かす。

1 歳児　明るく伸び伸びと自分から体を動かし、様々な動きをしようとする。
基本的な運動機能が発達し、自分から体を動かそうとする。

2 歳児　伸び伸びとやりたい遊びを存分に楽しむ。
保育者と一緒に全身や手足を使う遊び、運動遊びを楽しむ。

≪年齢に合わせた活動≫

０～１歳頃

はいはいマットを活かして、階段、坂道、おやま、タッチブロックで、這う、立つ、歩くなど、発達段階に応じてやってみたい気持ちを育みながら、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

２～３歳頃

ビルド&バランス・アドバンスセット、ミニトップを活かして、9種類のパーツを自由に組み合わせて、すべてをつなげたり、個別に組んだりして、発達段階に応じた遊具を取り入れながら、やってみたい気持ちを大切にその上を歩いたり、バランスをとったり、体をうまくコントロールする力などを育む。

【０歳児】

はいはいの頃は、緩やかな坂道や階段の途中や子どもの目線の先に保育者やおもちゃがあると這って進んだり、タッチブロックでつかまり立ちをしたり、よじ登ってみようと自ら挑戦する姿がありました。

立つことが安定してきてからは、タッチブロックを乗り越えたり、タッチブロックを柵があるところに設定すると、よじ登って柵につかまりながら立ち、見える景色がまた変化してうれしくて屈伸や背伸びもしていました。

歩き始めると、階段や坂道を「通ってみたい！」と保育者の手を借りながらも歩けた喜びから何度も繰り返していました。

歩行が安定してからは、バランスを取りながら一人で上り下りしたり、友だちと手をつなぎながら歩いてみたりし始めていました。タッチブロックを一本橋のようにつなげてみると、歩く幅が限られていてドキドキしながらも「やってみたい」という思いが勝り、慎重に歩いてみる様子がありました。

【子育てひろば】当会の子育て支援の場にも活用！

０～２歳児の親子が集まる子育てひろばで、はいはいマットを活かし、体を動かして楽しめる企画を取り入れてみると、多くの親子が集うきっかけとなりました。

また、作業療法士との連携による子育て相談の場にもなったり、全身を動かして遊ぶことの楽しさや外遊びの大切さを伝える機会にもなっています。

【１歳児】

＜平均台遊び＞ビート＆バランス・アドバンスセット

遊び始めの頃は平均台に興味を持っていましたが、まだ一人で渡るのは難しかったため、保育者の手を持ちながら、ゆっくりと渡る姿が見られたり、平均台にまたがり足を床につけてお尻を浮かせながら、少しずつ前へ移動したりして渡る姿が見られました。また何度も平均台遊びを取り入れることで、橋を渡る際に両手を伸ばしてバランスをとりながら、自分の力で慎重に歩くことができるようになってきました。

慣れてくると凸凹した種類の平均台を渡ったり、高さを変えて挑戦しながら、またいだり、登ったり、台の上から跳んでみたりと体を多様に動かしながら存分に楽しんでいます。

お尻をつけながらゆっくりと
前進していくよ

両手を広げて少しずつ
渡ってみるよ

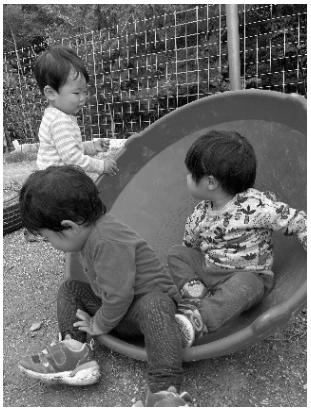
傾斜もどんどん登るよ

＜ミニトップ＞

遊び始めの頃はミニトップに乗ってゆらゆらと気持ちよく過ごす姿や、一人空間で落ち着いて過ごす様子がありました。慣れてくると自分で体勢を変えて動いたり、保育者が揺らしたり回したりすると、バランスをとって遊ぶ姿が見られました。また、友だちと一緒にミニトップに乗って、寝転がって動くことのおもしろさを体感していました。

ゆらゆらと
気持ちがいいなあ

自分でバランスを
とって動いてみるよ



友だちと一緒も
楽しいね

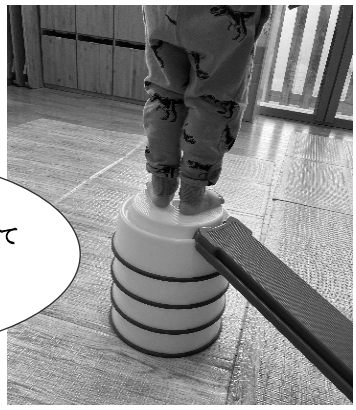
【２歳児】＜平均台遊び＞ビート＆バランス・アドバンスセット

年度当初は、様々な組み合わせができるという利点を生かし、平衡感覚、体幹を養っていけるように保育者が組み合わせて平均台遊びを楽しんでいました。

しかし、次第に子どもたちから「自分でやってみたい」という発信を表出してくるようになり、イメージを膨らませながら組み合わせることも楽しめるようになっていきました。保育者が組み合わせていく様子を繰り返しみていくなかで、段々と『自分でやってみたい』の気持ちが膨らんでいったのだろうと考えられます。

まずは、土台だけを置いて、
飛び石のようにして遊びたいんだ

今度は橋もつなげていって、
バランス、バランス



たくさん重ねて、ジャンプして
遊ぶのも楽しいよ

ドキドキしている友達に気づくと、手を差し伸べる姿が

３．その成果と評価

・はいはいマット遊びでは、様々な形のマットがあることで、平坦な室内に起伏や段差が生まれ、その時の一人ひとりの力とやってみたい気持ちが合わさり、いろいろな楽しみ方が見られました。時にはマットをつなげて友だちと一緒に寝そべって保育者とスキンシップやわらべ歌を楽しんだり、またがってバスごっこをしたりとコミュニケーションを楽しみながらゆったりと過ごせていました。

また、友だちがやっているのを見ると心を動かされ、一緒に楽しんだり、時には一人で使いたいという気持ちを表したりもしながら、友だちとの関わりも増えてきました。片付けにも興味がわき、保育者と一緒になって「わっしょい！わっしょい！」と楽しみながら運ぶことにも力を発揮し、その姿が周りにも広がっていきました。

・平均台遊びでは、体を十分に動かし、楽しみながら運動能力を高めることができたと思います。ただ渡って遊ぶだけではなく、平均台に友だちとまたがり電車ごっこみたいにして手と足とお尻など全身を使って「しゅっぱーつ！」と言いながら、友だちと前に進む様子から子どもたちの想像力が豊かに広がって楽しい見立て遊びへとつながっていました。

また、平均台を渡る際には、両手を広げてバランスをとりながら渡ることで、集中力とバランス感覚が育っていき、今ではスムーズに渡ることができるようになってきました。

さらに、橋を自分たちで変えて繋げていき、どのようにして遊ぶか頭を使って考えている姿も見られたので、遊びが段々と広がる様子から発想力、思考力も育まれていると感じています。特にバランス感覚を必要とする部分は、すぐに保育者や友だちに助けを求める子どもたちがいましたが、助けてもらったために意気込みが「よし！自分でもやってみよう」に変わっていき、横向きでバランスをとったり、大股で進んだりと、自分なりに工夫しながら遊びにチャレンジしていく姿につながったのではないだろうかと考えられます。

『ドキドキするから助けてほしいな』などと自分の気持ちを表出したり、『困ってそうだな』と友だちの気持ちに気づき、手助けしようという姿など、心も豊かになっていく姿に、保育者の心も温かくなる遊びの一つとなりました。

・ミニトップでは、最初の頃は座ってバランスをとることが難しかったのですが、保育者に見守られながら、少しずつバランスがとれるようになってきて、体をコントロールしながらバランス感覚が自然と養われていることを感じることができました。

４．今後の課題と展望

一年間を通じて、子どもたちは全身で体を動かすことの楽しさを味わいながら、一人ひとりの大きな成長につながりました。今後も継続してはいはいマットを活用していくことで、子どもたちの足腰、腕の力もつき、バランス感覚も養われていくことが期待されるので、引き続き子どもたちがやってみたい形に自由に組み合わせを楽しんだり、たっぷり体を動かす心地よさを存分に味わえるようにしていきたいです。

また、平均台遊びも続けていきながら、バランス感覚だけでなく、体をコントロールする力を高め、さらには、友だちと一緒に工夫して遊びをつくり出す力やチャレジする気持ちを大切に育んでいきたいと思います。ミニトップでも保育者がシーソーのように揺らしてみたり、回転させたり、また向きを変えて上に乗ってみたりと遊び方工夫しながら体の発達を促していきたいです。

今後の課題としては、未就園の親子に向けて、一人でも多くの子どもたちに運動遊びの機会をつくり、子どもたちがのびのびと遊び育つことの大切さ、楽しさを保護者の方へ伝えると共に当園の魅力を発信していきたいと思います。

今回、助成していただきましたことに心から感謝し、今後も大切に活用させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

以上